

— 調査概要 —

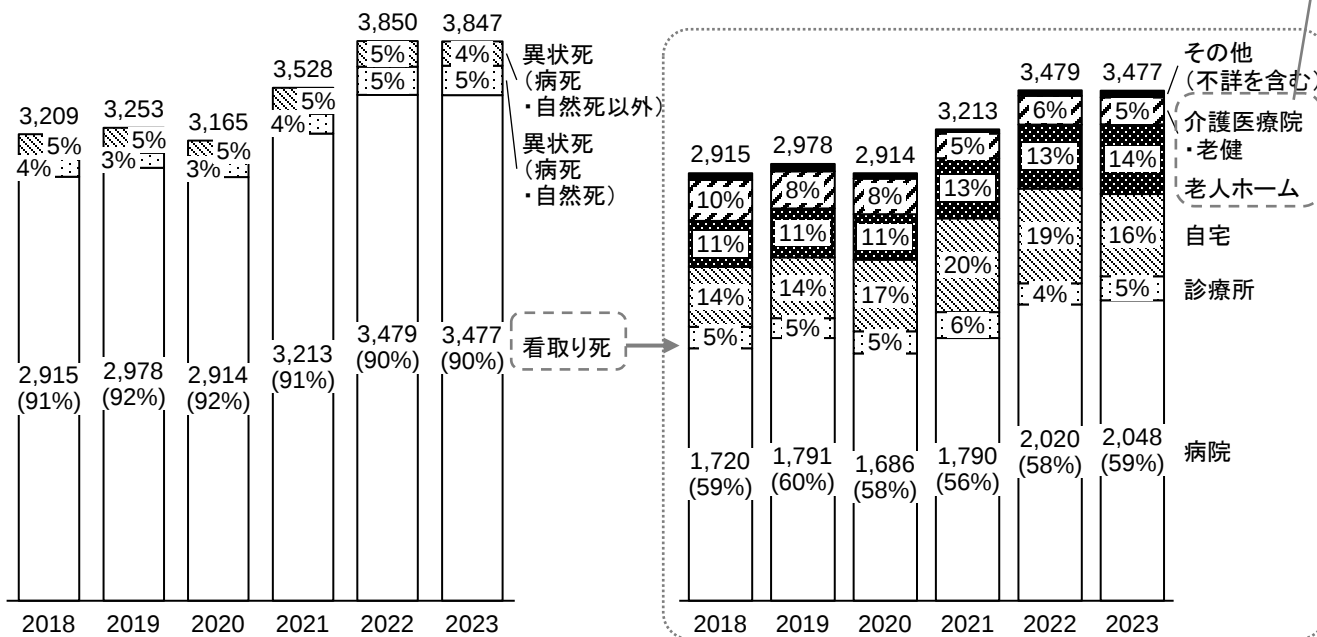
【調査目的】加古川市・稲美町・播磨町（以下、1市2町）の全死亡者における在宅看取りの実態や1市2町および隣接自治体の医療資源との関係性等を把握する。また、将来の在宅医療の需要を推計し、1市2町の在宅医療体制を検討するための基礎資料とする。

【対象】人口動態調査の死亡小票データ
2021年1月1日～2023年12月31日に死亡した1市2町の11,225件

※看取り死：病死・自然死のうち医師（監察医・嘱託医以外）が死亡診断書を発行したもの。
※異状死：看取り死以外の病死・自然死のほか、交通事故等での死亡のうち、監察医・嘱託医が死体検案書を発行したもの。

死亡者数

- ✓1市2町の死亡者数は、2020年から2022年にかけて大きく増加した後、横ばいで推移している。
- ✓看取り死は約90%、異状死（病死・自然死）3～5%、異状死（病死・自然死以外）4～5%で推移し、大きな変化はない。
- ✓看取り場所の比率は、2018年と2023年の比較において、病院が59%で横ばい、自宅が14%から16%と増加、老人ホームが11%から14%と漸増、介護医療院・老健が10%から5%と漸減している。2021年は、病院の割合が56%と最も低く、自宅の割合が20%と最も高い。



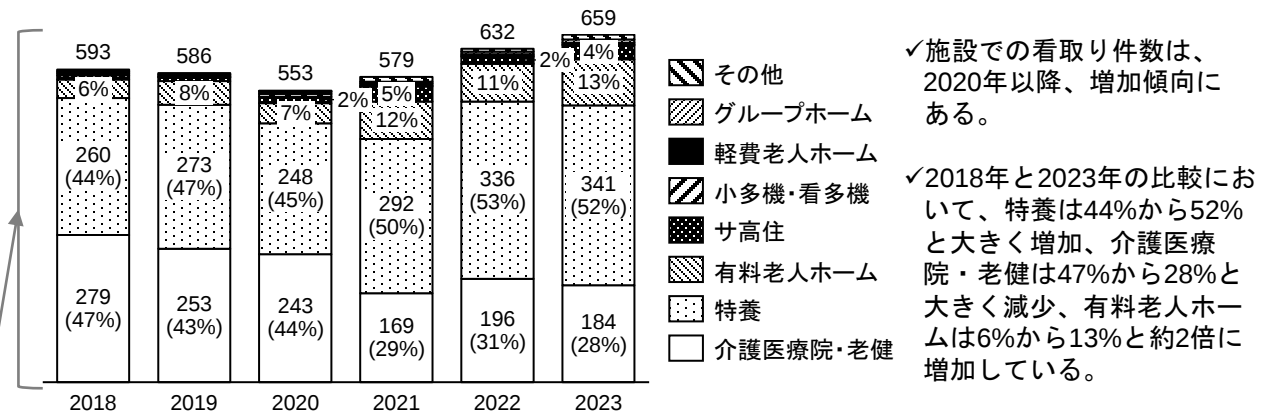
在宅支援診療所・病院の在宅看取りの現状（2023年）

- ✓2023年に最も在宅看取りをした在宅支援診療所（以下「在支診」）の種類は在支診2の355件（74.6%）で、看取りを行った8か所の平均看取り数は44.4件/年である。
- ✓在支診の届出をしていない医療機関でも25か所が46件（9.7%）を看取っている。

届出の種類	届出数	看取り対応数 括弧内は届出数に対する比	看取り件数
在宅療養支援診療所1	0か所(0.0%)	0か所(-)	0件(0.0%)
在宅療養支援診療所2	8か所(3.9%)	8か所(100.0%)	355件(74.6%)
在宅療養支援診療所3	26か所(12.7%)	13か所(50.0%)	68件(14.3%)
在宅療養支援病院1	0か所(0.0%)	0か所(-)	0件(0.0%)
在宅療養支援病院2	0か所(0.0%)	0か所(-)	0件(0.0%)
在宅療養支援病院3	2か所(1.0%)	1か所(50.0%)	7件(1.5%)
届出なし	169か所(82.4%)	25か所(14.8%)	46件(9.7%)
合計	205か所(100.0%)	47か所(22.9%)	476件(100.0%)

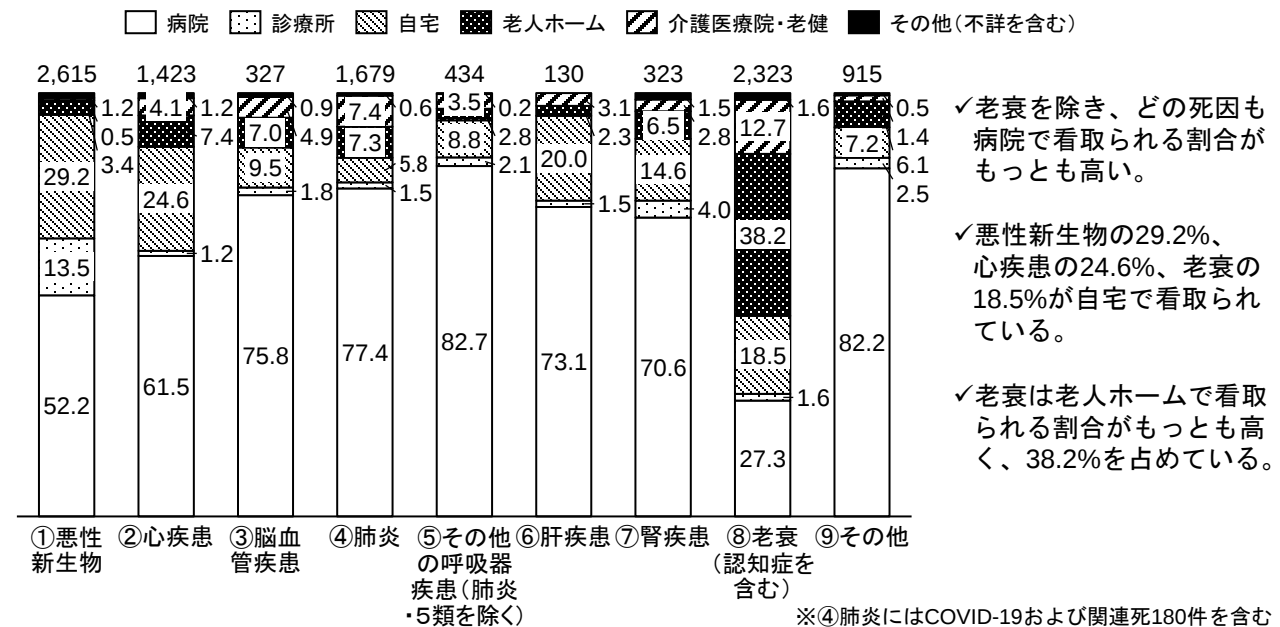
※届出は2024年10月現在

施設(老人ホーム・介護医療院・老健)看取り死数



- ✓施設での看取り件数は、2020年以降、増加傾向にある。
- ✓2018年と2023年の比較において、特養は44%から52%と大きく増加、介護医療院・老健は47%から28%と大きく減少、有料老人ホームは6%から13%と約2倍に増加している。

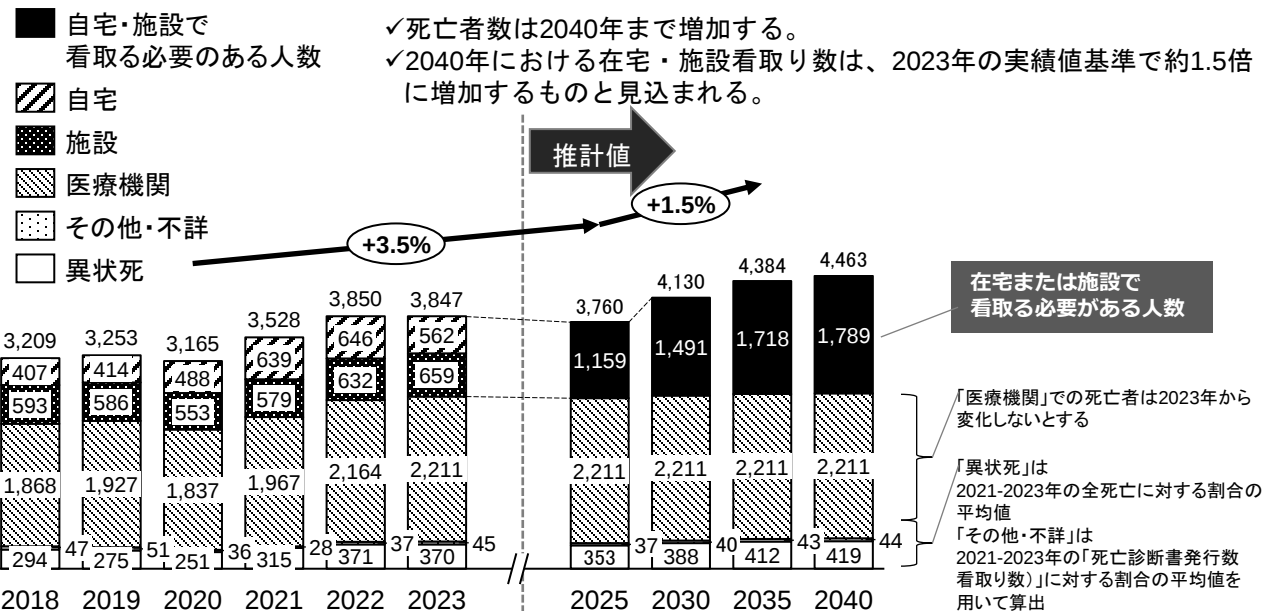
死因ごとの看取り場所の割合（2021～2023年）



- ✓老衰を除き、どの死因も病院で看取られる割合がもっとも高い。
- ✓悪性新生物の29.2%、心疾患の24.6%、老衰の18.5%が自宅で看取られている。
- ✓老衰は老人ホームで看取られる割合がもっとも高く、38.2%を占めている。

※④肺炎にはCOVID-19および関連死180件を含む

将来死亡者数推計



在宅または施設で看取る必要のある人数

「医療機関」での死亡者は2023年から変化しないとする
「異状死」は2021-2023年の全死亡に対する割合の平均値
「その他・不詳」は2021-2023年の「死亡診断書発行数(看取り数)」に対する割合の平均値を用いて算出